

# 柔道整復学科・夜間部（3年生）

	授業科目名	担当教員名	時間数	単位数	コマ数
基礎	経 営 学	佐 藤 孝 一	15	1	10
専門基礎分野	リハビリテーション医学	橋 本 茂 樹	30	2	20
	公 衆 衛 生 学	本 多 丘 人	30	2	20
	統 合 専 門 基 礎 医 学	長谷川・飯塚・岸野	105	7	70
	関 係 法 規	八 重 樫 正	15	1	10
	柔 道 III	八重樫・大村・松田	30	1	20
専門分野	臨床柔道整復学Ⅱ	渡辺・八重樫 板橋・工藤	75	5	50
	臨床柔道整復学Ⅲ	杉浦・小倉・松田	75	5	50
	統 合 柔 道 整 復 学	岩倉・片倉・小倉 松田・工藤・板橋・大島	90	6	60
	整 復 固 定 法	工藤・小倉・八重樫 大島・片倉・松田	60	2	40
	評 価 ・ 後 療 法	小倉・工藤・片倉・大島	30	1	20
	臨 床 実 習	工藤・板橋・大島	45	1	30
			600	34	400

## 柔道整復学科・夜間部・3年生（経営学）

担当教員	佐藤 孝一	単位・時間	1単位・15時間（10コマ）
教育目標	経営理論、ケーススタディを通して、より実践的な経営基礎知識を習得してもらう。		
授業内容	<p>(1) ヒト・モノ・カネがなぜ経営の三要素と言われるのか、様々な実例を交え講義する。</p> <p>(2) 経営の方向を左右するマーケティングやビジネスプランについて講義する。</p> <p>(3) 企業経営者をゲストスピーカーに招き、企業経営に必要な資質・条件等を学んでもらう。</p>		
成績評価	<p>成績評価にあたっては、</p> <p>① レポート②小テストの成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。</p> <p>・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。</p> <p>「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下</p>		

教科書	特になし	著者名	
		出版社名	
参考書	特になし	著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	経営学概論Ⅰ	
2	経営学概論Ⅱ	
3	ファイナンスの基礎知識	
4	マーケティングの基礎知識Ⅰ	
5	マーケティングの基礎知識Ⅱ	
6	企業ケーススタディⅠ	
7	企業ケーススタディⅡ	
8	開業に必要な基礎知識	
9	ビジネスプラン演習	
10	まとめ	

## 柔道整復学科・夜間部・3年生（リハビリテーション医学）

担当教員	橋 本 茂 樹	単位・時間	2 単位・30 時間（20 コマ）
教育目標	<p>今の高齢化社会において、リハビリテーション医学の重要性はますます高まっている。リハビリテーション医学は多くの職種の専門が集まって、人鋭の患者に共通の目標を持って総合的に治療を行っておく、いわゆるチームアプローチが基本である。現在、地域リハビリテーション医学の充実が必要となり、リハビリテーションの需要がさらに広がっている。その中で患者の持つあらゆる障害に対処していなければならないリハビリテーション医学はその対象が広くなり、専門的な知識と技術を持ち、あらゆる場面に対処できる優秀なリハビリテーションスタッフを養成していくことが必要となっている。柔道整復師としての業務範囲はおのずと制限されるが、広い知識を身につけ、技術の向上に努め、医療分野の一翼を担い、社会の要請に応じられる人材の育成を図り、リハビリテーション医学の講義をすすめていく方針である。</p>		
授業内容	<p>心身の障害を捕らえ方法、すなわち評価と障害に対する治療的アプローチの概要を教授する。障害像では多岐にわたり、学生が理解にも困難さが予測されるが、臨床場面の話を言い、確実に定着した能力を身に付ける。単元毎に知識の定着を見るために小テストを行い、教授する側のフィードバックとする。国家試験の過去問題も一緒に用いながら、常に臨戦態勢で講義を行う。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。</li> <li>・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。</li> <li>・ 再試験は授業時間外に実施する。</li> <li>・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。</li> <li>・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。</li> <li>・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。  「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点  「不可」：59点以下</li> </ul>		

教科書	リハビリテーション医学(改訂第3版)	著者名	全国柔道整復学校協会
		出版社名	南江堂
参考書	国家試験過去問題	著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	リハビリテーション医学の概念と方法	
2	障害学の三つのレベルとアプローチ	
3	リハビリテーション医学の基礎医学1	
4	リハビリテーション医学の基礎医学1	
5	障害学	
6	評価学1	
7	評価学2	
8	治療学1	
9	治療学2	
10	中間テスト	
11	中間テスト解析	
12	リハビリテーションの実際 脳卒中	
13	リハビリテーションの実際 脊髄損傷	
14	リハビリテーションの実際 切断	
15	リハビリテーションの実際 脳性麻痺（小児）	
16	リハビリテーションの実際 関節リウマチ	
17	リハビリテーションの実際 整形外科疾患	
18	リハビリテーションの実際 肺疾患・心疾患	
19	期末試験	
20	期末試験の解析	

## 柔道整復学科・夜間部・3年生（公衆衛生学）

担当教員	本多 丘人	単位・時間	2単位・30時間（20コマ）
教育目標	<p>最終学年になり医学の基礎もかなり身に付いたことと思うが、ここで公衆衛生学を学習したい。</p> <p>公衆衛生学とは、疾病予防と健康の保持増進のための科学であり、活動である。公衆衛生学は社会制度を整備して、集団の健康を増進する幅の広い分野の学問であるので、国家レベルの社会制度の理解から、個人レベルの生活習慣病の予防に至るまでの広い理解が必要となる。</p>		
授業内容	<p>基本的に必要な資料はすべてプリントにて配布するので、資料は生理して保存しておいてほしい。</p> <p>授業は過去の国家試験問題とその類題を理解するために必要な知識や理論について解説していきたい。また後期に始まる統合基礎医学でもさらに理解を深めていきたい。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。</li> <li>・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。</li> <li>・ 再試験は授業時間外に実施する。</li> <li>・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。</li> <li>・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。</li> <li>・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。  「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点  「不可」：59点以下</li> </ul>		

教科書	シンプル衛生公衆衛生学	著者名	鈴木 庄亮 他
		出版社名	南江堂
参考書	衛生学・公衆衛生学	著者名	鈴木 庄亮 他
		出版社名	南江堂

回	講義内容	備 考
1	第1・2章 公衆衛生学と健康 1	
2	第1・2章 公衆衛生学と健康 2	
3	第3章 疾病予防と健康	
4	第4章 感染症 1	
5	第4章 感染症 2	
6	第5章 消毒	
7	第6章 環境保健 1	
8	第6章 環境保健 2	
9	第6章 環境保健 3	
10	第1回試験	60点未満の者は再試験を行う。
11	第7章 母子保健	
12	第8章 学校保健	
13	第9章 産業保健	
14	第10章 成人・老人保健	
15	第11章 精神保健	
16	第12章 生活環境・食品衛生	
17	第13章 地域保健と国際保健	
18	第14章 衛生行政と保健医療	
19	第15章 疫学	
20	第2回試験	60点未満の者は再試験を行う。

## 柔道整復学科・夜間部・3年生（統合専門基礎医学）

担当教員	長谷川・飯塚・岸野	単位・時間	7単位・105時間（70コマ）
教育目標	2年生終了時までの間に学習した、解剖学・生理学・病理学等の基礎医学について、これらを統合した形で再度学習し、基礎医学に関する知識を確かなものにするを教育目標とする。		
授業内容	<p>1. 解剖生理学のまとめ（48コマ、担当：長谷川）</p> <p>2. 病理学のまとめ（10コマ、担当：飯塚）</p> <p>3. 生理学のまとめ（12コマ、担当：岸野）</p> <p>なお、授業の途中で、適宜、中間試験を実施することがある</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。</li> <li>・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。</li> <li>・ 再試験は授業時間外に実施する。</li> <li>・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。</li> <li>・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。</li> <li>・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。  「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点  「不可」：59点以下</li> </ul>		

教科書	プリント配布	著者名	
		出版社名	
参考書		著者名	
		出版社名	



回	長谷川・講義内容	回	長谷川・講義内容	回	岸野・講義内容
1	運動器：総論	31	栄養素 2	1	生理学の復習
2	運動器：頭部	32	泌尿器：腎臓	2	生理学の復習
3	運動器：頸部・胸部	33	泌尿器：腎臓・尿路	3	生理学の復習
4	運動器：腹背部・上肢帯	34	内分泌 1	4	生理学の復習
5	運動器：上肢	35	内分泌 2	5	生理学の復習
6	運動器：下肢	36	体温調節・体液調節	6	中間試験
7	細胞膜・細胞小器官	37	中間試験③	7	生理学の復習
8	細胞核・細胞分裂	38	神経系の基礎	8	生理学の復習
9	生殖と発生	39	中枢神経：大脳	9	生理学の復習
10	上皮組織・結合組織	40	中枢神経：大脳・脳幹	10	生理学の復習
11	骨組織・筋組織	41	中枢神経：脊髄	11	生理学の復習
12	中間試験①	42	末梢神経：脳神経	12	期末試験
13	循環器：総論	43	末梢神経：脊髄神経		
14	循環器：心臓 1	44	末梢神経：自律神経		
15	循環器：心臓 2	45	感覚器：総論・皮膚		
16	循環器：動脈 1	46	感覚器：視覚器		
17	循環器：動脈 2	47	感覚器：聴覚器		
18	循環器：静脈	48	期末試験		
19	循環器：リンパ管				
20	血液	回	飯塚・講義内容		
21	免疫機構 1	1	病因、退行性病変 1		
22	免疫機構 2	2	循環障害、進行性病変 1		
23	呼吸器 1	3	炎症、免疫 1		
24	呼吸器 2	4	腫瘍、先天性疾患 1		
25	中間試験②	5	まとめ試験 1		
26	消化器：口腔	6	病因、退行性病変 2		
27	消化器：食道・胃	7	病因、退行性病変 2		
28	消化器：腸管	8	炎症、免疫 2		
29	消化器：肝臓・膵臓	9	腫瘍、先天性疾患 2		
30	栄養素 1	10	まとめ試験 2		
備考 試験日程等、授業の進行状況により変更することもある。					

## 柔道整復学科・夜間部・3年生（関係法規）

担当教員	八 重 樫 正	単位・時間	1 位・15 時間（10 コマ）
教育目標	柔道整復師として必要な法的知識、その教育を通して柔道整復師としての倫理観の徹底、順法精神の涵養等、医事関係法規を学ぶ。		
授業内容	<p style="text-align: center;">以下の項目について講義を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 法の意義</li> <li>2. 柔道整復師法とその関連内容</li> <li>3. 医療従事者の身分関係法</li> <li>4. 医療法</li> <li>5. 薬事法規</li> <li>6. 衛生関係法規</li> </ol>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。</li> <li>・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。</li> <li>・ 再試験は授業時間外に実施する。</li> <li>・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。</li> <li>・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。</li> <li>・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。  「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点  「不可」：59点以下</li> </ul>		

教科書	関係法規	著者名	（社）全国柔道整復学校協会
		出版社名	医歯薬出版株式会社
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	序論、総則	
2	免許	
3	柔道整復師試験、業務	
4	施術所、雑則	
5	罰則、指定登録機関および指定試験期間、附則	
6	医療従事者の資格法	
7	医療法その他の関係法規	
8	試験	
9	試験解説	
10	総合復習	
備考		

## 柔道整復学科・夜間部・3年生（柔道Ⅲ）

担当教員	八重樫・大村・松田	単位・時間	1 単位・30 時間（20 コマ）
教育目標	柔道整復師として柔道を正しく理解するため、柔道技術の構造、精神および体育的価値を中心に講義、実習する		
授業内容	礼法、受身、基本動作、对人的技能、審判法、形などを扱う。授業は初心者でも十分に理解、体得できるような進度を前提にするが、内容によっては習熟度に応じたグループ別学習も取り入れることがある。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業への出席が 3 分の 2 以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。</li> <li>・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。</li> <li>・ 再試験は授業時間外に実施する。</li> <li>・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。</li> <li>・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。</li> <li>・ 成績は以下の 5 段階で評価し、「可」以上を合格とする。  「秀」：90～100 点 「優」：80～89 点 「良」：70～79 点 「可」：60～69 点  「不可」：59 点以下</li> </ul>		

教科書	なし	著者名	
		出版社名	
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備 考
1	柔道小史、受身	
2	出足払、膝車、支釣込足	
3	浮き落とし	
4	背負投	
5	肩車	
6	浮腰	
7	払腰	
8	釣込腰	
9	送足払	
10	支釣込足	
11	内股	
12	投の形、打ち込み、投げ込み	
13	投の形、打ち込み、投げ込み	
14	投の形、打ち込み、投げ込み	
15	投の形、打ち込み、投げ込み、乱取り	
16	投の形、打ち込み、投げ込み、乱取り	
17	投の形、打ち込み、投げ込み、乱取り	
18	投の形、打ち込み、投げ込み、乱取り	
19	投の形、打ち込み、投げ込み、乱取り	
20	試 験	

## 柔道整復学科・夜間部・3年生（臨床柔道整復学Ⅱ）

担当教員	渡辺・八重樫・板橋・工藤	単位・時間	5単位・75時間（50コマ）
教育目標	<p>柔道整復術は、輝かしい伝統を基礎とし、近代医学の発展に貢献してきた。その中で柔道整復学は柔道整復師を目指すものにとっては欠かすことのできないものである。1学年で学んだ基礎柔道整復学を基盤として、柔道整復師が実際に触れる外傷を理論的に学び、柔道整復術の意義、社会的役割を理解し、医療に携わるものとして社会からの信頼と尊敬を得るような人間性の向上と、高度の医学的知識の修得が必須である。そのため業務として扱う外傷についての理論を植付け、柔道整復学の正しい理解を促すため、教科書を中心に講義を進める方針である。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各外傷の原因説明</li> <li>2. 各外傷の分類説明</li> <li>3. 各外傷の症状説明</li> <li>4. 各外傷鑑別診断説明</li> <li>5. 問題演習</li> </ol>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。</li> <li>・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。</li> <li>・ 再試験は授業時間外に実施する。</li> <li>・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。</li> <li>・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。</li> <li>・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。  「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点  「不可」：59点以下</li> </ul>		

教科書	柔道整復学（理論編）	著者名	全国柔道整復学校協会
		出版社名	南江堂
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	回	講義内容
1	柔道整復学に必要な機能解剖	26	骨折・脱臼の概論・総論①
2		27	
3	上肢の軟部組織損傷①	28	
4		29	体幹部の外傷
5		30	
6	下肢の軟部組織損傷②	31	上肢の外傷
7		32	
8		33	
9		34	
10	頭部外傷	35	
11	上肢の軟部組織損傷②	36	下肢の外傷
12		37	
13		38	
14	下肢の軟部組織損傷②	39	
15		40	骨折・脱臼の概論・総論②
16		41	
17	総合演習	42	手指部の外傷
18		43	
19		44	
20		45	足部・足趾部の外傷
21		46	
22	47	総合演習	
23	48		全身の外傷(骨折・脱臼・軟部組織損傷)
24	49		
25	中間試験	50	期末試験
備考	講義時間内でテストを行うことがある。		

## 柔道整復学科・夜間部・3年生（臨床柔道整復学Ⅲ）

担当教員	杉浦・小倉・松田	単位・時間	5単位・75時間（50コマ）
教育目標	柔道整復の臨床上において、必要不可欠な人体の構造と機能、鑑別が必要な疾患や整形外科的障害及びその病態生理、業務範囲内外の判断に必要な救急知識と関連法規等の知識を柔道整復師国家試験過去問の中から問題を抽出して演習・検討することにより柔道整復師としての知識を習得することを目標とする。		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各分野の問題演習</li> <li>2. 各分野の解説</li> </ol>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。</li> <li>・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。</li> <li>・ 再試験は授業時間外に実施する。</li> <li>・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。</li> <li>・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。</li> <li>・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。  「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点  「不可」：59点以下</li> </ul>		

教科書	柔道整復学（理論編）	著者名	全国柔道整復学校協会
		出版社名	南江堂
参考書		著者名	
		出版社名	



講義内容		備考
1~9	専門分野および専門基礎分野の問題演習・解説	
10	中間試験	
11~20	専門分野および専門基礎分野の問題演習・解説	
備考： 小テスト・出席なども試験の点数に考慮することがある		

講義内容		備考
1~9	専門分野および専門基礎分野の問題演習・解説	
10	中間試験	
11~19	専門分野および専門基礎分野の問題演習・解説	
20	中間試験	
21~30	専門分野および専門基礎分野の問題演習・解説	
備考： 小テスト・出席なども試験の点数に考慮することがある 授業内容がすべて終了した時期に期末試験を実施。		

## 柔道整復学科・夜間部・3年生（統合柔道整復学）

担当教員	岩倉・片倉・小倉 松田・工藤・板橋・大島	単位・時間	6単位・90時間（60コマ）
教育目標	国家試験に合格することのできる総合的学力を身につけることを目標とします。		
授業内容	解剖学・生理学・病理学・運動学・関係法規・一般臨床医学・リハビリテーション医学・整形外科学・外科学概論・柔道整復学等について、担当の教員が講義を行います。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。</li> <li>・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。</li> <li>・ 再試験は授業時間外に実施する。</li> <li>・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。</li> <li>・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。</li> <li>・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下</li> </ul>		

教科書	なし	著者名	
		出版社名	
参考書		著者名	
		出版社名	

回	回	講義内容	備考
1	31	解剖学・生理学・病理学・運動学・関係法規・一般臨床医学・リハビリテーション医学・整形外科学・外科学概論・柔道整復学等について、担当の教員が講義を行います。  ※ この 60 講の中で、9 回程度の間接試験を実施します。 ※ 中間試験等の詳細な日程については、後日発表します。	
2	32		
3	33		
4	34		
5	35		
6	36		
7	37		
8	38		
9	39		
10	40		
11	41		
12	42		
13	43		
14	44		
15	45		
16	46		
17	47		
18	48		
19	49		
20	50		
21	51		
22	52		
23	53		
24	54		
25	55		
26	56		
27	57		
28	58		
29	59		
30	60		

## 柔道整復学科・夜間部・3年生（整復固定法）

担当教員	工藤・小倉・八重樫 大島・片倉・松田	単位・時間	2単位・60時間（40コマ）
教育目標	<p>柔道整復学理論や柔道整復学実技をもとに、柔道整復師が実際に業とする運動器外傷を想定し、機能解剖を習得し、触診法および鑑別診断など柔道整復師として必要な知識を習得する。</p> <p>国家試験の内容に対応できる運動器外傷の総論、各論の知識の習得に努める。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各外傷の概説</li> <li>2. 整復方法</li> <li>3. 固定方法</li> <li>4. 国家試験に対応した運動器外傷の総論、各論</li> </ol>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。</li> <li>・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。</li> <li>・ 再試験は授業時間外に実施する。</li> <li>・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。</li> <li>・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。</li> <li>・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下</li> </ul>		

教科書	柔道整復学（実技編）	著者名	全国柔道整復学校協会
		出版社名	南江堂
参考書	柔道整復学（理論編）	著者名	全国柔道整復学校協会
		出版社名	南江堂

回	講義内容	回	講義内容
1	ガイダンス・固定材料作成	21	膝内側半月損傷（検査法）
2	肩鎖関節脱臼（整復）	22	下腿三頭筋肉離れ（検査法）
3	肩鎖関節脱臼（固定）	23	足関節外側靭帯損傷（検査法）
4	肩関節脱臼（整復）	24	復習
5	肩関節脱臼（固定）	25	上腕骨骨幹部骨折（固定）
6	鎖骨骨折（整復）	26	第5中足骨頸部骨折（固定）
7	鎖骨骨折（固定）	27	下腿骨骨幹部骨折（固定）
8	外科頸骨折（整復）	28	肋骨骨折（固定）
9	コーレス骨折（整復）	29	第2指PIP関節背側脱臼（固定）
10	コーレス骨折（固定）	30	アキレス腱断裂（固定）
11	肘関節脱臼（整復）	31	足関節外側靭帯損傷（副子固定）
12	肘関節脱臼（固定）	32	膝内側側副靭帯損傷（テープ）
13	肘内障（整復）	33	足関節外側靭帯損傷（テープ：2種）
14	腱板損傷（検査法）	34	予備（入退室）
15	上腕二頭筋長頭腱損傷（検査法）	35	総合復習
16	復習	36	総合復習
17	ハムストリングス肉離れ	37	総合復習
18	大腿四頭筋打撲（検査法）	38	試験
19	膝関節側副靭帯損傷（検査法）	39	試験
20	膝前十字靭帯損傷（検査法）	40	試験
備考 上記以外に試験を実施する			

## 柔道整復学科・夜間部・3年生（評価・後療法）

担当教員	小倉・工藤・片倉・大島	単位・時間	1単位・30時間（20コマ）
教育目標	柔道整復学理論や柔道整復学実技をもとに、柔道整復師が実際に業とする運動器外傷を想定し、機能解剖を習得し、実際の身体に触れ、触診法および鑑別診断など卒業後柔道整復師として役に立つ実技を行なう。		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各外傷の概説</li> <li>2. 診断方法</li> <li>3. 検査方法</li> <li>4. 治療法</li> <li>5. 画像診断</li> <li>6. 実技審査対策</li> </ol>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。</li> <li>・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。</li> <li>・ 再試験は授業時間外に実施する。</li> <li>・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。</li> <li>・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。</li> <li>・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。  「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点  「不可」：59点以下</li> </ul>		

教科書	柔道整復学（実技編）	著者名	全国柔道整復学校協会
		出版社名	南江堂
参考書	柔道整復学（理論編）	著者名	全国柔道整復学校協会
		出版社名	南江堂

講義内容			
1	肩鎖関節脱臼（整復・固定）	11	上腕骨骨幹部骨折 第5中手骨頸部骨折（固定）
2	肩関節脱臼（整復・固定）	12	下腿骨骨幹部骨折 肋骨骨折（固定）
3	鎖骨骨折（整復・固定）	13	第2指PIP関節背側脱臼 アキレス腱断裂（固定）
4	外科頸骨折・肘内障（整復）	14	足関節外側靭帯損傷（固定）
5	コーレス骨折（整復・固定）	15	膝内側靭帯損傷（固定）・膝復習
6	肘関節脱臼（整復・固定）	16	上記内容についての総合演習
7	腱板損傷・上腕二頭筋長頭腱損傷（検査）	17	上記内容についての総合演習
8	大腿部損傷（検査）	18	試 験
9	膝関節損傷（検査）	19	試 験
10	下腿三頭筋肉離れ 足関節外側靭帯損傷（検査）	20	試 験
備考 上記以外に試験を実施する			

## 柔道整復学科・夜間部・3年生（臨床実習）

担当教員	工藤・板橋・大島	単位・時間	1単位・45時間（30コマ）
教育目標	柔道整復師として患者に対する心得と臨床に必要な基本的手技、整復法、固定法などを学ぶ。		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床実習の心得</li> <li>2. 軟部組織損傷の基礎実習</li> <li>3. 脱臼の基礎実習</li> <li>4. 骨折の基礎実習</li> </ol>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。</li> <li>・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。</li> <li>・再試験は授業時間外に実施する。</li> <li>・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。</li> <li>・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。</li> <li>・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。  「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点  「不可」：59点以下</li> </ul>		

教科書	柔道整復学(実技編)	著者名	(社) 全国柔道整復学校協会
		出版社名	南江堂
参考書	柔道整復学（理論編）	著者名	(社) 全国柔道整復学校協会
		出版社名	南江堂



回	講義内容	備考	
1	臨床実習の心得		
2	カルテ記入についての基礎		
3	徒手検査法		
4	神経学的検査法		
5	ROMテスト		
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17		総合実習	
18		臨床実践	
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30	期末テスト		